

人口推計（案）

新総合計画 計画期間

令和4年度～令和16年度

（単位：人）

	2015年 （平成27年）	2020年 （令和2年）	2025年 （令和7年）	2030年 （令和12年）	2035年 （令和17年）
H30社人研推計	131,606	130,389	127,437	123,302	118,498
パターン①	131,606	130,554	127,807	123,866	119,258
パターン②	131,606	130,675	128,073	124,305	119,873
パターン③	131,606	131,162	129,147	126,081	122,371
パターン④	131,606	131,230	129,279	126,284	122,641
パターン⑤	131,606	130,358	127,432	123,317	118,510
パターン⑥	131,606	130,194	127,119	122,860	117,887

〔推計仮定条件〕

H30社人研推計

—

パターン①

社人研推計に対して合計特殊出生率を補正（我孫子市の過去10年間の合計特出生率のうち、H27の最も高い水準である1.31が今後継続するものと仮定）

パターン②

パターン①をベースに、我孫子市総合戦略の各施策展開により、25-34歳までの転出超過が現行よりも2割低減されると仮定

なお、25-34歳の社会移動に着目した理由は、我孫子市の過去の社会移動状況より転出超過の約9割が20代～30代であることによる。

パターン③

パターン①をベースに、H29以降の社会移動状況（転入超過傾向）を勘案し、25-34歳の社会移動が均衡になることにより全体として転入超過となるものと仮定

パターン④

パターン③をベースに、H29の年齢階層別移動状況を勘案し、10歳未満と60歳以上（60-84歳まで）の転入超過傾向が現行よりもプラス10%増加すると仮定

パターン⑤

社人研推計に対して合計特殊出生率を補正（我孫子市の過去5年平均1.25が今後も継続するものと仮定）

パターン⑥

社人研推計に対して合計特殊出生率を補正（我孫子市の平成29年の1.2が今後も継続するものと仮定）